



校長室だより 2

黒部市立萩生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和5年10月20日
5年度第19号

先週末14日(土)は萩生の村祭りでした。八幡社では5年ぶりに子供みこしと小天狗の舞いの奉納がありました。5・6年生の子供たちが色鮮やかな衣装を身につけて堂々と演じました。また地域の方の挨拶を聞いたり会話をしたりしてふれあう時間もおり、どの子の顔も生き生きと楽しげでした。5年ぶりの奉納ということで子供たちにとってはほとんど初めての経験でしたが、放課後の練習会や八幡社の清掃ボランティア等を通して、地域の文化や伝統行事へとしっかり目を向け、心を寄せることができたようです。お世話をされた児童クラブの方も大変だったことと思います。大変お疲れ様でした。



SOSを出せる環境、自分たちで解決しようとする力

★いろいろな大人とのつながいを増やし、「困った」「助けて」が言えるように・・・

先週12日(木)からの1週間あまり、校内ふれあい週間として、一人一人の子供が先生と個別に面談をする期間としています。子供たちには事前にアンケートで学校や家庭での過ごし方や心の様子等を答えてもらいました。

今学期はこのアンケートの内容と方法を少し見直しました。これまでは「相談したい先生がいれば書きましょう」でしたが、より具体的に選びやすいように、「お話や相談をしたい先生に〇をつけましょう」と14名の教員名を明記しました。そしてアンケートを入れる封筒を「校長先生行き」としました。

集まったアンケートはまず校長室で確認し、各担任に渡しています。今回はほとんどの子供が学校生活について「とても楽しい」「楽しい」を選び、困ったことや悩みについても「なし」または空欄の子が多かったのですが、少しでも気になる記述があった子には、まずは校長から個別に確認をとるようにしました。また、話をしたい先生として担任以外の先生を選ぶ子はあまりいませんでしたが、いた場合は校長からその先生に連絡をし、個別に話す時間が取れるようにしてもらいました。

アンケート全体の様子からみて、深刻な悩みや相談というよりは「〇〇先生と話がしてみたいな」という積極的な気持ちで、たくさんの先生に〇を付けてくれたのだろうと思える子も何人かいました(特に低学年)。できる範囲でそのリクエストに応じてあげてくださいと、それぞれの先生に伝えました。

今年は「萩っ子班」での交流が増え、子供たちにとっては担任以外のいろいろな先生ともふれあうことが増えています。「ふれあい週間」をきっかけに、これまで以上に身の回りのたくさんの人と話をする機会にしてほしいと思います。そして、いつか本当に「困った」「助けて」のSOSを出したくなったときに、いろいろな人を思い出し、つながってほしいと思います。

★「大丈夫、自分たちで解決したから！」の頼もしい言葉

本当に困ったときはSOSを出してほしいと思う一方で、日常のちょっとした問題やトラブルを自分で何とかしようと頑張ってみる心も、子供たちの中に育てていきたいと考えます。

先日、ある先生から聞いた話です。一人の子が「さっき、〇〇(友達の名前)が僕のおなかを叩いたんだよ」と言ってきたとのこと。「え、大丈夫？」それは保健室で手当をするほどのケガではないようでその子の表情もケロッとしています。とはいえ、どのような経緯でそうなったのか確かめようとその先生が詳しく聞こうとしたところ、「大丈夫。自分たちでちゃんと解決したから！」ときっぱり答えたそうです。もしかすると、その子は「叩かれた」ということよりも「自分たちで解決した」ということを伝えたくて先生に近付いてきたのかもしれない。その話を聞いて私は「成長しているなあ」と感じました。

友達と何らかの流れでトラブルになっても、それぞれの思いを伝え合い、ごめんねと謝りそして許し合う、そうしたことを自分たちの力でできるようになってきている子供たちの姿は頼もしいです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

荻生小の「や・か・た」をこれからも大切な合い言葉に

18日(水)の北日本新聞20面の「学びや合い言葉」に本校の「やさしく・かしこく・たくましく」が取り上げられました。6年生の代表児童が書いた文章を中心に大きく載っています。

実は今回この記事が載る際に一番嬉しかったのは、新聞社の方から「学校のHPを見て、荻生小学校の子供たちが生き生きと活動している様子が感じられたので、是非!」と原稿を依頼されたことです。荻っ子の素敵な姿を伝えようと教職員が輪番で工夫しながらHPアップに取り組んできた甲斐(かい)がありました。

さて、去る13日(金)朝のフレンド集会では、4年生の器楽演奏を全校で鑑賞して楽しみました。この記事も先日のHPに載っていますので見てください。

子供たちが日々いろいろな活動を通してこれからも「やさしく・かしこく・たくましく」に向かって成長していくことを願っています。



シリーズ「教室におじゃまします」10/12(木)6年社会科の巻

歴史の勉強は平安時代から鎌倉時代に移っていました。授業の初めは「NHK for School」で平家打倒の場面を復習します。「1185(いよいよ立派壇ノ浦の戦い)」という年号の覚え方があるのですね。勉強になります。

次は頼朝が幕府を開いた鎌倉とはどんな場所か、教科書や資料集の地図を見ながら確かめました。

そしていよいよ今日の本題。岡本先生が「頼朝はどうやって鎌倉の武士を従えていったのだろう」という課題を出しました。各自で教科書や資料集、インターネット等で調べ始めました。調べ学習には慣れている子供たちなので、自分の調べやすい方法を選び、迷わず取りかかる様子が見られ、感心しました。ほとんどの子が一人で取り組み始め、そのうちに近くの子と相談したり、先生に助言を求めたりするなど、時間を有効に使いながら学習に取り組んでいました。

時間が残りわずかとなり、岡本先生が数名の子を少し指名しました。キーワードとして「領地」「ご恩」「奉公」といったものが出てきました。「領地がもらえるとどういういいところがあるのか」を具体的にはまだ考えられていないようでしたが…。続きは次回に持ち越します。



おまけの<ひとごと> 荻生の村祭りの小天狗の舞を見ていると、すごく懐かしい気持ちになりました。私の実家の辺りのお祭りの音楽と同じ旋律でした。踊りもよく似ていたようです(実家の方では刀をカチャンカチャンとぶつけ合います)。今回は5年ぶりのお祭りだったため、八幡社での奉納だけの縮小バージョンだそうで、本来なら町内を練り歩いて踊って回るのでしょうか…。でも何れともあれ、小規模でも開催できてよかったのではないのでしょうか。地域の伝統行事や文化の継承がなかなか難しくなっている今日ですが、今回のお祭りに参加した高学年の子、そして近くで見ていた下級生も、きっと強く心が動いたことと思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。